



Noh
OHISUMI NOH THEATRE



新春能

令和七年度 大槻能楽堂自主公演能

令和八年

一月三日〔土〕

十四時開演

翁
OKINA

狂言

縄 絢
NAWANAI

片山九郎右衛門
茂山千之丞
茂山千五郎

復曲能

岩 船
IWA FUNE

観世 喜正

一月四日〔日〕

十四時開演

翁
OKINA

狂言

鍋八撥
NABEYATSUBACHI

大槻 文藏
野村 萬斎
野村 万作

能

張 良
CHORYO

浅井 文義

令和7年度 大槻能楽堂自主公演能 音声による上演前の解説(日英) ● 利用料 200円

公演日の演目について気軽に聞ける、音声による上演前の解説(日英)をご用意しました。開演前、休憩中にぜひご利用ください。※上演中はご利用いただけません。

大槻能楽堂

主催：公益財団法人大槻能楽堂

助成：大阪市助成



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
| 独立行政法人日本芸術文化振興会

〒540-0005 大阪市中央区上町A-7
TEL.06-6761-8055
【公式サイト】 noh-kyogen.com

公演パンフレット「おもて」
季刊発行(詞章・あらすじ等を掲載)
1冊:1000円(定価)



令和七年度大槻能楽堂自主公演能

新春能

13時開場

14時開演

第744回 令和8年1月3日(土)

翁

おきな

翁 三番三 千歳 面箱持
笛 小鼓 頭取 脇鼓 脇鼓
大鼓 後見
地謡
狂言後見

片山九郎右衛門
茂山千之丞
片山峻佑
茂山慶和
齊藤敦
清水睦祐
上田敦史
清水和音
山本哲也
片山伸吾
大江信行
藤井完治
梅若猶義
多島利之
齊藤信隆
山本正人
齊藤信輔
水田雄昭
山田薫
茂山逸平
鈴木実

休憩

狂言

縄 綱

なわな

太郎冠者 茂山千五郎
主人 茂山茂
何某 茂山逸平
後見 増田浩紀

休憩

復曲能

岩 船

いわふね

前シテ 女 観世 喜正
後シテ 天探女
前ツレ 供女
後ツレ 龍神
ワキ 臣下
ワキツレ 随臣
ワキツレ 随臣
アイ 浦人

笛 杉 信太郎
小鼓 大倉源次郎
大鼓 亀井 広忠
太鼓 小寺真佐人
後見 大槻 文蔵
赤松 禎友
上野 雄三

地謡 山崎 正道
上田 拓司
山本 博通
浦田 保親
梅若 基徳
寺澤 幸祐
武富 康之
長山 耕三

※復曲能「岩船」は国立能楽堂制作作品です。
(終演予定時刻 17時40分頃)

第745回 令和8年1月4日(日)

翁

おきな

翁 大槻 文蔵
三番三 萬斎
千歳 雄介
面箱持 連
笛 竹市 学
小鼓 曾和 鼓堂
脇鼓 成田 達志
脇鼓 成田 奏
手先 成田 奏
大鼓 亀井 広忠
後見 上野 雄三
大槻 裕一

地謡 多島 利之
久島 信隆
山本 章弘
山本 正人
水田 雄昭
今村 哲朗
山田 薫
稲本 幹汰
深田 博治
高野 和憲

休憩

狂言

鍋 八 撥

なべやつばち

鍋売り 野村 万作
羯鼓売り 野村 裕基
目代 飯田 豪
笛 竹市 学
後見 高野 和憲

休憩

能

張 良

ちやうりよう

前シテ 老翁 浅井 文義
後シテ 黄石公 浦田 保親
ツレ 龍神 福王 知登
ワキ 張良 福王 知登
アイ 張良の下人 野村 太郎

笛 左鴻 泰弘
小鼓 久田 舜一郎
大鼓 河村 大
太鼓 中田 弘美
後見 上野 朝義
赤松 禎友

地謡 上田 貴弘
上田 拓司
山本 博通
大西 礼久
寺澤 幸祐
武富 康之
井戸 良祐
齊藤 信輔

(終演予定時刻 17時30分頃)

《翁》

三丁の小鼓と大鼓が織成すリズムの高揚。千歳は颯爽と舞い、白い翁は厳かに天下泰平と国土安穩の祈りを捧げ、黒い翁は大地を踏み跳躍して五穀豊穡を願う。――

祭祀そのものと言われ、他の演目とは一線を画す様式を持つ。「能にして能にあらず」とも言われる特別な演目である。後見や地謡が、武家の正装たる長袴の素袍に侍烏帽子を付けた姿で居並ぶのも《翁》だけだ。

正月になくはならない大槻能楽堂の名物、二日連続公演の《翁》。令和八年の幕開けを飾る新春能一日目(3日)は、いずれも京都から。片山九郎右衛門の大夫に、千歳は片山峻佑(片山伸吾長男)。三番三(大蔵流)は茂山千五郎家の茂山千之丞、面箱持は茂山慶和(茂山逸平長男)が勤める。二日目(4日)の大夫は大槻文蔵(文化功労者・人間国宝)、千歳は上野雄介(上野雄三長男)。三番叟(和泉流)は東京から野村萬斎、面箱持は野村万作家の内藤連が勤める。

囃子方も東西の名手から若手まで、両日とも是非観たい豪華な顔触れは、大槻能楽堂新春能ならではの。

狂言《縄綱》

博奕で大負けした借金の形(かた)に太郎冠者を取られてしまった主人は、太郎冠者が嫌がるのを危惧して、事実を隠して博奕仲間の家へ使いに遣る。事実を知った太郎冠者は、用事を言い付けられても理由をつけて断り、得意な縄綱いもやらない。怒った博奕仲間から抗議された主人は、一計を案じて太郎冠者に縄を縛わせる。――

十四世茂山千五郎の演ずる太郎冠者が、博奕仲間やその妻の悪口を言いながら縄を縛う場面は芸の見せどころ。

復曲能《岩船》

住吉の浦に新しく市を立てて高麗や唐土から来た宝を買取れとの勅命によって臣下が訪れると、唐人の姿で大和ことばを話す不思議な女が現れる。勅使に宝珠を捧げた女は、昔、帝釈天の住む喜見城の宝物を載せた岩船をこの浦に漕ぎ寄せた天探女(あまのさくめ)とは自分のことと明かして、嵐とともに姿を消す。――

現行では後場のための半能形式になっているが、前場を復曲した形で上演する。後場に宝船の作り物が出て、漕ぎ手の天探女が登場するという現行にはない華やかな演出。東京から観世喜正を迎えて天下泰平の世を願い寿ぐ。

狂言《鍋八撥》

新しく市(いち)を立てるにあたって、最初に店を出した者を市の代表者にして雑税を免除する旨の高札(掲示板)が立ち、一番に来たのは羯鼓売りだったが、まだ夜中なのでそのまま寝てしまふ。ところが、次に来た鍋売りが自分が先に着いたように装う。朝になって言い争いになった二人は、決着をつけるために勝負する。――

舞台生活九十年を超えた野村万作(文化功労者・日本芸術院会員・人間国宝)の至芸を堪能してほしい。

能《張良》

漢の高祖(劉邦)の軍師・張良は、不思議な夢を見た。馬に乗った老人が沓(くつ)を落として張良に履かせるように命じるので、年長者を敬って沓を捧げると、老人から「五日後にこの場所では兵法の奥義を伝えよう」と告げられて目が覚めたのだ。はたして五日後、一度目は遅参をとがめられ、二度目に赴いた早晩、威儀を正して馬上で張良を待っていた老人は黄石公と名乗り、沓を川へ蹴落とした。すかさず張良は激流の中へ飛び込む。――

シテ(老人／黄石公)浅井文義を相手に、ワキ(張良)福王知登が大活躍。様々な口伝のあるワキ方の大曲だ。

〔文・石淵文恵〕

入場料金	席 種	前 売	当 日
	S 席	11,000 円	12,000 円
	A 席	9,900 円	10,900 円
	B 席	7,700 円	8,700 円
	学生(B席)	5,500 円	6,500 円

※友の会：割引特典あり ※当日券は開演1時間前より販売

チケット 発売日	公 演	友の会	一般
	1/3 岩 船	10/23	10/31
	1/4 張 良	10/24	11/4

チケットご予約・ご購入

★各種サポートセットの販売有

★大槻能楽堂ホームページ(発売日10:00～)

<https://noh-kyogen.com/ticket/>

★大槻能楽堂 事務局(11:00～16:00 不定休)

TEL.06-6761-8055

●チケットぴあ(Pコード)

1/3 532-555 1/4 532-556



会場 大槻能楽堂

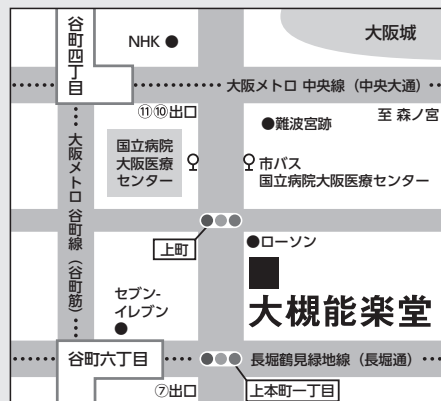
大阪市中央区上町A番7号

- 大阪メトロ谷町線・中央線「谷町四丁目」駅下車、⑩号出口を出て南へ約300m。
(⑪号出口にエレベーター有)
- または谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」駅下車、⑦号出口を出て北へ約350m。
(⑦号出口にエレベーター有)
- 市バス「国立病院大阪医療センター」下車南へすぐ。
※「大阪駅前」から62号系統「住吉車庫前」行き、
「あべの橋」から62号系統「大阪駅前」行き。

一步踏み込んだ解説講座はいかがでしょう？

月イチ能楽講座in大槻能楽堂

講師	大槻裕一・成田奏
講座内容	1/23(金)19時～ 演目「張良」 ※公演後の開催となります。
料金	2,000円
申込	右記QRコードを読み取り、 申込フォームをご送信ください。



※駐車場・駐輪場はございません。

※やむを得ぬ事情により、曲目・出演者・日程・終演予定時刻等の変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承くださいませ、
お願い申し上げます。

※本公演における写真撮影及び録音・録画は固くお断りいたします。

※上演中は時計等のアラームや携帯電話の電源をお切りください。

※未就学児のご入場はご遠慮ください。